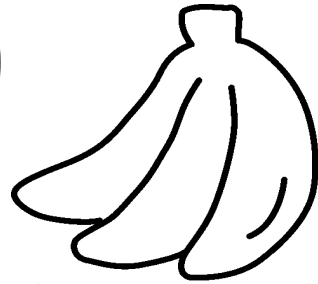


ばななだより

草笛学園 2024年11月号



日中もずいぶん涼しくなり、秋らしくなってきましたね。秋といえば、スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋など、いろいろな楽しみが待っていますね♪お散歩に行くと、落ち葉やどんぐり、松ぼっくりなど、この時期ならではのステキな発見もありますね。とはいえ、日中との温度差が激しいので、皆様、体調には気をつけてお過ごしください。



自制心の形成

4歳なかごろになると、「～ダケレドモ、～ダケレドモ」と自分自身に言い聞かせるような気持ちが芽生え始めます。これは、自分の気持ちを調整したり、抑えたり、ふんばる力が育ってきているのです。こういった姿は、今まで大人の手を借りて取り組むことが当たり前であった3歳までとは違い、急に「お兄ちゃん（お姉ちゃん）になったなあ」と感じる子どもの成長した姿です。

たとえば、保育園でも先生のお話に集中できなくなったときに「今、お友達とお話したいケレドモ、先生がお話ししているから黙っていよう」と、お友だちと話したい気持ちを抑えて、先生の話の聞いたり、また、「はずかしいけれども、話してみよう」「○○ちゃんのように、走ってみよう」「難しいけれども挑戦してみよう」など、「がんばりたい」という前向きな気持ちを持って新しいことに取り組むようになるのです。このように自分の気持ちを調整し、ふんばる力を「自制心」と言います。この自分の気持ちを調整しようとする力は、自分の要求と社会のルールをつきあわせ、行動できるようになる基礎となります。もちろん、この力を育てていくには大人の支えも必要です。子ども自身が取り組んだことで、最初はできずにすぐに気持ちが崩れることがあります。がんばろうとする力を育てていくためにも、そばにいる大人が子どもの要求に共感してやりながらも、「少しむずかしいけれども、こうやってやってみようか」と一緒に取り組んであげたり、「見てあげるよ」と見守る大人の関わりは、子どもが安心して、さらなる挑戦につながります。このような力をバネにして、新しいことに挑戦しようとすることも増えます。その挑戦してできたことに対して、自信を持つようにもなります。

また、幼稚園などで製作に取り組むときに、一生懸命やっているお友だちのそばでわざとふざけたり、関心がないような素振りを見せて「ボクしないもん」と言うことがあります。大人から見ると「できる力が十分にあるのに、どうしてしないの?」と、もどかしく思うことがあります。このような姿は、お友だちが上手にしているのを見て「あんなに上手にできない」と尻込みしたり、「失敗したらどうしよう」と思ったりなど、「がんばりたいけれども行動に移せない」という葛藤を抱えている姿として捉える必要があります。「自分でできた!」「自分一人で作った!」という4歳児の誇りに気づいてあげることが大切です。

子どもは、成長できる自分をほめてほしい気持ちでいっぱいです。子どものやった活動だけを褒めるのではなくて、子どもの気持ち、内面を理解して受けとめた褒め方をしてあげてください。「むずかしかったけど、よくがんばったね」「寂しかったけれど、よくがんばったね」などと、大人がむずかしいけれどもがんばった自分を褒めてくれることに、また意欲を燃やしていきます。

参考文献:『子どもの「困った」を理解する』 長崎順子/山本喜久子/山本弥栄子 著



次回のばなな教室は、「クリスマス製作」をします!

ばなな① 12月5日 ばなな② 12月19日

〈持ってくるもの〉

- ・のり・はさみ・マジック
- ・水筒・着替え(必要な人)



『参加される皆様へ』 ~ご協力をお願いします~

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費は、おやつ代の100円です。製作やクッキングの時には、材料費として追加で100円いただきます。
- ・活動は、主に草笛学園〈遊戯室〉での活動となります
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい(ジュース類は控えてください)
- ・きょうだい児の参加は、ご遠慮下さい。預け先がない場合は、事前に職員までご相談下さい
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切って下さい